

2013年度 教育課程論Ⅱ

Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計 (教育課程)

2013年11月6日収録

京都大学 西岡加名恵

課題C 学力評価計画の策定

10月30日に配布した資料4②【評価計画Ⅱ】の書式を用いて、自分の好きな教科・学年(学期)の学力評価計画を立ててください。

※学力評価計画については、単元レベルで作る場合もあります。

一枚ポートフォリオの裏面Cのセクション

教科: 学校段階: 学年・学期:

ワードやエクセルのファイルで作って、貼り付けでも良い。

→資料4. 評価計画の書式の統一例

資料4. 評価計画の書式の統一例 (京都市立乙訓区立中学校)

京都大学 教育課程論Ⅱ
2013年10月30日 西岡加名恵

① 【評価計画Ⅰ】「評定」用ループブック

【評価計画Ⅱ】「評定」用ループブック (京都市立乙訓区立中学校)

② 【評価計画Ⅲ】観点別評価の付け方と「評定」への変換ルール表

◎予め資料をプリントアウトして、手元で見ながら視聴してください。

◎「日々の記録」◎

◎課題B「パフォーマンス課題づくり」／課題C「学力評価計画の策定」に取り組んだ際に、自分なりに工夫した点や発見したことについて述べなさい。

◎課題D(あ)「ポートフォリオの設計——生徒への説明」に取り組んだ際に想定していた学校の特徴について述べなさい。

(1) 学力評価計画の立て方

① “目標分析”の問題点

	単元1	単元2	単元3	...	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	...	合計・平均
思考・判断	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	...	合計・平均
技能・表現	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	...	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	...	合計・平均

◎問題点

- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「よし」と判断できるのか、不明。
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！
←形成的評価(授業改善のための評価)と総括的評価(指導後の状況を記録するための評価)の区別がついていない。

◎イギリスGCSE(英語)の科目明細の例

	「文芸のテキストを読む」 統制された評価 (課題3つ)	「想像的に書く」 統制された評価 (課題2つを含む 習作1つ)	「話す・聞く」 統制された評価 (課題3つ)	「情報と観念」 試験 (筆記)	計
	約50時間	約20時間	約20時間	2時間	
	シェークスピア、散文・ノンフィクション、詩	テキスト開発とメディア	個人の貢献、グループ活動、ドラマ活動	ノンフィクションとメディア、書くこと	
話す・聞く			40点		40点 (20%)
読む	40点			40点	80点 (40%)
書く		40点		40点	80点 (40%)
	40点 (20%)	40点 (20%)	40点 (20%)	80点 (40%)	

(GCSE English-J350(from 2012))

<http://www.ocr.org.uk/qualifications/gcse-english-j350-from-2012/>

13

◎イギリス GCE(応用科学)の科目明細の例

評価の単元	必修/選択	レベル	評価方法	AO1	AO2	AO3	計
G620 機能している科学	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G621 職場における分析	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G622 人体の活動をモニタリングする	必修	AS	外部試験	64	36	—	100
G627 科学者の仕事を探究する	必修	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
G628/G635	選択	A2	外部試験	50	50	—	100
G629-G634のうち1つ	選択	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
				230	182	188	600

(AS/A Level GCEScience (applied) - H175, H375, H575, H775

<http://www.ocr.org.uk/qualifications/as-a-level-gce-science-applied-h175-h375-h575-h775/>)

AO1: 知識と理解の実演

AO2: スキル・知識・理解の応用

AO3: 実験と調査

◎単元学習指導案の例(森千映子先生提供)

京都市立西京中学校
3年3組 39名
平成18年11月21日(水)第4校時(12:30~13:20)
授業: 2年2組 森千映子

Unit 6 20th Century Glass (東京書籍 NEW HORIZON)

単元目標
1. 歴史的・文化的背景などから、ガラスの発展について考える。
2. 現代社会におけるガラスの役割について考える。
3. 未来のガラスについて考える。

評価方法
① 観察・実験
② 観察・実験
③ 観察・実験
④ 観察・実験

評価方法
① パフォーマンス課題
② パフォーマンス課題
③ パフォーマンス課題
④ パフォーマンス課題

単元内の構造化

(3)「乙訓スタンダード」の背景

◎評価に関する決定権は、各学校にある。

- 「学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進」

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

- 「評定の適切な決定方法等については、各学校において定める」

(文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」2010年5月11日)

- ただし、「評価の結果が進学等において活用される都道府県等の地域ごとに、一定の統一性が保たれることも求められる」

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

◎乙訓地方中学校長会の決定(2011年度)

学校間での評価について、統一的なルールを定めること、および改訂・改善を重ねていく。

←アンケートなどにより、全教員の意見を集約しつつ、策定。

←そのプロセスに、西岡はアドバイザーとして参加。

17

◎何のための乙訓スタンダードか？

(乙訓地方中学校長会による説明、2011年8月)

①評価の信頼性が高まる。

- 生徒・保護者にとっては、どの学校でも、一貫した評価を受けられる。

②評価の妥当性(カリキュラム適合性)が高まる。

- より効果的に評価ができ、「確かな学力」をより的確にとらえることができる。

③より効率的に評価ができるようになり、無駄な労力が省ける。

④教育実践の指針となる。

⑤優れた実践の知見を共有できる。

⑥教員同士で、実践改善のためのアイデアが出しやすくなる。

⑦説明責任が果しやすくなる。

⑧進学先に対しても、「乙訓」の取り組みをアピールできる。

18

- 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(2010年5月11日)
→ 別紙5 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小・中学校)、別紙6 各教科の評価の観点及びその趣旨(高等学校)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293807.htm
- 「評価規準の作成のための参考資料」(国立教育政策研究所)
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>

25

図形の計量	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・学んだ知識・ 技能を実生活で 活用し、問題を 解決する。	習得が必要な目標について、 箇条書きして、チェックリストを 作る。(具体的な問題例等を 示すのもよい。)
2年に比例す る関数		ループリット(評価指標・レベル分け基準表) を用いて評価することも考えられる。
資料の活用		単元を超えて一貫した目標を設定したり、複数単元で 一つの目標を設定したりする場合もある。
筆記テスト		
実技テスト		
ポスター/課題 (レポート)		
授業中の 観察等		
作問権		
成績づけのための 評価の時期	複数作成して、 一冊良い作品 2つ	大単元一つ 期末テスト 期末テスト

④その学年(学期)で
用いる評価方法を書き込む。

26

図形の計量	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・学んだ知識・ 技能を実生活で 活用し、問題を 解決する。	習得が必要な目標について、 箇条書きして、チェックリストを 作る。(具体的な問題例等を 示すのもよい。)
2年に比例す る関数		
資料の活用		
筆記テスト		
実技テスト		
ポスター/課題 (レポート)	10	25
授業中の 観察等		
作問権		
成績づけのための 評価の時期	複数作成して、 一冊良い作品 2つ	大単元一つ 期末テスト 期末テスト

⑤評価の観点と評価方法を
踏まえて、重みづけに応じた
%を書き込む。

27

「評定」への 変換ルール	5: 90%以上 4: 80%以上 3: 50%以上	2: 30%以上 1: 10%以上		
観点別評価の 重みづけ	20	25	30	25

①観点毎の重みづけを
考えて、%を書き込む。
(最後でもOK)

当初、①で考えていた%
を修正してもOK。

28

図形の計量	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・学んだ知識・ 技能を実生活で 活用し、問題を 解決する。	習得が必要な目標について、 箇条書きして、チェックリストを 作る。(具体的な問題例等を 示すのもよい。)
2年に比例す る関数		
資料の活用		
筆記テスト		
実技テスト		
ポスター/課題 (レポート)	10	25
授業中の 観察等		
作問権		
成績づけのための 評価の時期	複数作成して、 一冊良い作品 2つ	大単元一つ 期末テスト 期末テスト

⑥成績づけのための
評価の時期を書き込む。

29

(5) 評価計画を評価する視点

- ◆カリキュラム適合性 ← 妥当性
- ◆比較可能性 ← 信頼性
- ◆公正性:
平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、
公表と承認の原則
- ◆実行可能性

何のため? 改訂・改善
する!

(西岡加名恵「教育評価の方法原理」
田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)

30